



今年度も残りわずかとなりました。学年、学級の締めくくりを大切にするとともに、次年度へ向けての準備も少しずつ意識していただきたいと思います。そのために、まずは1年間の取組を振り返り、課題を明らかにしましょう。その際には右の資料も御活用ください。

課題をもとに、4月のスタートから学級経営を充実させていきましょう。本号では、学級経営を充実させるために意識して取り組みたい活動例を紹介します。



生徒支援・教育相談センター
「あしたも笑顔で」p13-15
魅力ある学校づくりのための
チェックリスト

児童(生徒)の発達を支える指導の充実

学習や生活の基盤として、教師と児童(生徒)との信頼関係及び児童(生徒)相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行う**ガイダンス**と、個々の児童(生徒)の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行う**カウンセリング**の双方により、児童(生徒)の発達を支援すること。

「小学校(中学校)学習指導要領解説総則編」より

ガイダンス (集団の場面で行う指導・援助)	カウンセリング (個別の課題に対応した指導・援助)
<p>すべての児童生徒が学級や学校生活によりよく適応し、豊かな人間関係を築くための「事前の情報提供」や「集団での共通理解」のこと</p>	<p>一人一人が抱える悩みや困難を受け止め、「個別の会話・面談」や「意図的な言葉かけ」を通して解決を援助すること</p>
<p>【活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ユニバーサルデザインを意識した環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・教室環境の工夫 <ul style="list-style-type: none"> →ロッカーの整理の仕方など、見本となる写真などを提示して共通理解をする。 →見通しを持って取り組めるよう、1日のスケジュールや授業の展開を黒板に提示し、全員に共有する。 ◎適応・選択のための情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ・行事や学習の開始時のオリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> →安心して、参加しやすい環境づくりのために、最初に目的やルールなどを丁寧に共有する。 ◎「学級開き」から早い段階での共通理解 <ul style="list-style-type: none"> ・教師の思いや願いの共有 <ul style="list-style-type: none"> →子どもたちに、自分が大切にしたいこと、許せないことなどを熱意をもって伝える。 ・生活習慣の定着 <ul style="list-style-type: none"> →短学活のプログラムや提出物の出し方などを、手順を追って全員で確認する。 ・学級目標作成のための準備 <ul style="list-style-type: none"> →子どもたちの思いや願いを十分に引き出し、全体で共有して目指す学級像を話し合う。 	<p>【活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎一人一人に寄り添う「確かな児童生徒理解」 <ul style="list-style-type: none"> ・毎日全員とコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> →朝の健康観察や提出物を直接受け取る時などに「あいさつ+ひとこと」を心がけ、その日の状態(顔色や反応)を把握する。 ◎悩みや困難への援助 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、周囲との連携 <ul style="list-style-type: none"> →学級通信などで生活の様子をこまめに伝え、保護者との共通理解を図る。一人で抱え込まず、学年主任や養護教諭らと積極的に情報共有を行う。 ◎児童生徒への接し方 <ul style="list-style-type: none"> ・意図的な言葉かけや接点づくりの工夫 <ul style="list-style-type: none"> →結果だけでなく、過程や頑張りの場面を捉えて、行動を意味付けたり、ほめたりする。 →「～してはダメ」と否定的な表現ではなく、「～しよう」と肯定的な表現を心がける。その際に、具体的な言動を伝えるようにする。 →不登校傾向の子どもに対しては、その子のペースに合わせたコミュニケーションを、反抗的な態度を示す子どもに対しては、毅然とした態度を心がける。

このような活動を行うことは、年度当初の小1プロブレムや中1ギャップといった生徒指導上の課題の解決にもつながります。ガイダンスで「**集団の安心感**」を、カウンセリングで「**個の安心感**」をつくることで、すべての子どもが安心して過ごせる学級を目指しましょう。

